

特定非営利活動法人日本パラ射撃連盟 2025年度臨時理事会議事録

日 時 2025 年4月8日(火) 19:30～21:00

場 所 日本財団パラスポーツサポートセンター内会議室 Japan
およびオンライン会議(Zoom)

出席者

理 事 8名中8名出席

対面出席 田口亜希理事、

オンライン出席 岸高清専務理事、栗生由紀理事、野口尚伸理事、

北村綱為理事、成山悟史理事、馬渡崇理事、久米高治理事

監 事 オンライン出席 菅野利雄監事

陪 席 長谷川勝壽会長

議事録署名人：岸高清専務理事、野口尚伸理事

議長は岸高専務理事が務めた。

議事録署名人に岸高清専務理事、野口尚伸理事の二名が提案され、異議なく承認された。

〈長谷川勝壽会長挨拶〉

最近、連盟運営が非常にスムーズになっており、大変心強く感じている。特に野口さんの的確な助言、岸高専務理事の迅速な対応には感謝している。これは大きな前進だが、JPC等への報告が一部遅れている点は課題である。田中 HPD や猪坂さん、野口さん、中重さんと連携し、さらに迅速な対応をお願いしたいと考えている。

【審議事項】

＜第1号議案＞ ナショナルコーチ・スタッフ等設置事業の謝金額決定

田中 HPD より、2025 年度のナショナルコーチ体制(田中 HPD、猪坂ヘッドコーチ、野口ナショナルコーチ A・中重ナショナルコーチ B)と謝金案について説明があった。役職や業務量に一部変更があるが、資料から業務の違いが不明瞭との指摘が岸高専務理事・田口理事からあった。また、謝金算出の根拠や工数の整合性についても疑問が示された。日数ではなく年間総工数(時間)での表記が望ましいとの提案もあり、資料を再作成するした。議長がはかったところ、議案としては継続審議とすることとなった。

＜第2号議案＞ 2025 年度強化事業計画

田中 HPD より、2025 年度の強化事業計画案について説明が行われた。
2028 年ロサンゼルス大会と 2032 年ブリスベン大会に向けた長期的な目標として、ロサンゼルスでは「メダル 1 名・入賞 1 名・出場選手 4 名」、ブリスベンでは「出場選手 6 名・メダル獲得体制の構築」を目指す方針が示された。ピストル種目は現時点で強化指定選手がいないが、今後の出場をサブ目標として位置づけた。

育成方針としては、選手発掘と育成体制の整備が最重要課題とされ、JPC のワークショップ成果をもとにコーチ向け指導体系図も作成された。国際大会では 2026 年のアジアパラ競技大会と世界選手権が重要な節目とされ、出場枠の確保戦略も説明された。

予算面では、JPC からの助成金が前年比約 2 倍となり、育成・新規選手向けの助成金も別枠で交付を受けた説明された

岸高専務理事から収支の総額が資料に明記されておらず分かりにくいとの指摘があり、今後は一覧表形式での提示が提案された。野口理事からは予算の使途や配分について、田口理事からは選手数増加見込みが予算に反映されていない点への指摘があった。また、中重コーチのピストル種目の活動が限定的に見える点や、全体にアクションプランや KPI が未整理であることが課題として挙げた。これに対し、田中 HPD より今後整理し、アクションプラン等入れた資料を再作成するとした。

ハイパフォーマンスサポート事業に関しては、トレーナーや心理サポートスタッフの派遣を予定しており、助成金の申請締切(4月30日)までに理事への説明会を実施し、承認を得ることとされた。議長がはかったところ、本議案は関係者の了承をもって進行することとなった。

<第 3 号議案> 2025 年度 強化指定選手選考規程

田中 HPD より、2025 年度の強化指定選手選考規定の説明が行われた。

基本は 2024 年度を踏襲しつつ、以下の修正が加えられた。

- ・対象者要件に「ロサンゼルスパラリンピックを目指す意思」を明記。
- ・全員が取得済みのため、WSPS クラス分け・所持銃に関する記載を見直し。
- ・評価対象大会を、2025 年内の国際大会3つと全日本大会(大分)に限定。春季大会は対象外とした。

これにより、対象者の明確化と実績重視の選考体制を整備する方針が示された。

田口理事から合宿不参加選手への対処について質問があり、行動規範改定案で対応予定とされた。岸高専務理事からは大会数の少なさに懸念が示され、今後の大会増加を視野に入れていると回答。成山理事からは日ラ主催大会との連携提案があり、田中 HPD はスケジュール調整と連携強化の必要性を指摘した。

また、岸高専務理事より NTC 合宿最終日の記録会を評価対象にする案も出され、今後の検討課題とされた。議長がはかったところ全員異議なく承認された。

<第 4 号議案> ワールド・アビリティ・スポーツゲームズ 2025 選手派遣規程

田中 HPD より、2025年9月にインドネシアで開催予定のワールド・アビリティ・スポーツゲームズについて、選手派遣規定案の説明が行われた。

本大会は、国際クラス分け未取得や実戦経験が少ない育成選手にとって重要な国際大会と位置づけられ、強化指定選手は対象外とし、IPC 登録(2025年ライセンス取得者)を持つ選手全般が対象とした。出場枠が限られる場合は、選考会で出場者を決定する方針であった。費用は選手自己負担とし、スタッフ派遣費のみ助成金で対応予定とした。スタッフ2名分の派遣だけで予算超過が見込まれており、選手費用の補助は困難との見通しが示され

た。本大会の事前合宿は必須とし、合宿への参加が派遣条件とするとした。

田口理事より、すべての選手に公平な派遣機会があるか確認があり、田中 HPD より立場により差はあるが、基本的には機会を与えられていると回答がされた。また、大会費用の選手自己負担の表記に、コーチ・スタッフ分の費用負担が選手側に及ぶ可能性がある旨が読み取れるかどうかの懸念が提示された。田中 HPD より、将来的な方針にもかかわるため、現段階では現文面を維持するが、必要に応じて補足の形で整理すると回答された。2025年4月8日時点の強化指定状況を基準とすることが確認され、規程に明記することとした。

議長がはかったところ、全員異議なく承認された。

2025 年3月4日

議事録署名人

特定非営利活動法人日本パラ射撃連盟

議長

岸 高 清

理事

野口 尚 伸

以上